

【高知 蔦屋書店オーガニック・エコマルシェの趣旨】

1、「オーガニック」はあたりまえ

自然環境や健康に配慮して作られた農産物、加工食品、生活雑貨などを販売するマルシェを定期的を開催します。

特に食の分野は、人の健康、ひいては命につながっています。マルシェが大人と子どもの食育の場となることを目指し、地場のもの、季節のものをバランスよく摂り、よく噛んでいただく、自然と調和した食生活が広まることを願います。

販売方法においても、できるだけ環境へ負荷をかけない、最小限の包装を心がけ、試食・試飲の際にもできる限りゴミが出ないように努めます。

「オーガニック」が流行や付加価値ではなく、あたりまえのことになって欲しい。シンプルで健康的なライフスタイルが、特別で難しいことではなく、楽しくやさしく心地よい、あたりまえのことになって欲しい。このような思いで、楽しくやさしく心地よいマルシェとなるよう運営していきます。

私たちは、有機やオーガニックという言葉、単に有機 JAS の認証という狭義な意味ではなく、私たちの生きかたや社会の有り様を丸ごと含んでいるものと考えています。蔦屋さんで定期市として始まるオーガニックエコマルシェは、よりオーガニックな命あふれる社会を作っていくことに貢献できると思います。

2、売ることから学ぼうー自分で作ったものを自分で売るー

買う人と直接ふれあうことでしか得られない貴重なものがたくさんあります。

新しいニーズを知ることは、何を作るか、どんな作り方をするか、いくらで売るかなど、次へのヒントにつながります。「おいしかった」「楽しみにしている」などの声は、自信や励みとなり、さらなる生産意欲につながります。

また、出店者同士も積極的に交流し情報交換することで、互いをよい刺激とし、マルシェが活気づいていくことを期待します。

自分で作ったものに自信を持ち、楽しくいきいきと売る人に、買う人は魅力を感じます。買い手にとって、作り手から直接話を聞けることは、対面販売ならではの楽しい醍醐味でもあります。このマルシェがただ売り買いする場ではなく、価値ある交流の場ともなることを目指します。